

『学ぶ力を高める指導の工夫』

～少人数に応じた学習指導～

I 研究の内容

1. 研究の仮説

基礎学力をしっかりと定着させるとともに少人数の利点を生かしたり弱点を克服する工夫をしたりして、わかる授業、楽しい授業を工夫することにより、児童は分かる喜びや学ぶ意欲を持つことができ学ぶ力が高まるであろう。

2. 研究の具体的内容と方法

(ア)確かな学力の基盤をつくる取り組み

- ・全校で共通の朝の習熟学習時間(ステップアップタイム)の有効活用を図る。
- ・計算・漢字・音読・辞書の活用・読書などの力や家庭学習の習慣・基本的な生活習慣・学習習慣などを育成するための実践を記録し、学年間で情報交換する中でよりよいものにしていく。

(イ)少人数の利点を生かしたわかる授業・楽しい授業の工夫

- ・学ぶ力を高めることについての理論研究をする。
- ・児童の実態に合わせ、少人数の利点を生かした授業や欠点を補う授業を工夫し、児童の学ぶ力を高める。全学年で授業を公開する。
- ・指導主事を招聘し、研究を深める。

(ウ)児童の実態や変容を見取る工夫をする。

子どもアンケートの実施・自己評価や教師の見取りの工夫などを行なう。

3. 実践内容

①確かな学力の基盤をつくる取り組み

朝の習熟学習の時間を「ステップアップタイム」とし、学習の基礎となる「読む、書く、計算する」力をつける取り組みをした。それぞれの学級の児童の実態に合わせ、内容は弾力的にしたが、主に読書、漢字学習、計算練習などを継続して取り組んだ。望ましい学習習慣の育成について、中・高学年では「家庭学習の記録」をつけ、進んで家庭学習に取り組むようにした。低学年は基本的な学習習慣が身に付くよう取り組んだ。

②少人数の利点を生かしたわかる授業・楽しい授業の工夫

全員による授業公開

- | | | |
|----|---------------------------------------|-------|
| 1年 | 算数 「ひきざん」 | 津野 千尋 |
| | 計算ブロックを使い、ひきざんのやり方を考え、それを話したり聞いたりする授業 | |
| 2年 | 国語 「一本の木」 | 沼田 豊子 |
| | ペアになっての話し合い、作業を取り入れた文章の読み取り | |
| 3年 | 算数 「水のかさをはかろう」 | 関口 若子 |

	グループ活動，操作活動を中心にした授業	
4年	道徳 「一枚の絵から」(思いやり・親切) 発表形式の工夫，考える時間の確保，一人で多くの考えを出す工夫など をした授業	廣瀬 剛
5年	算数 「図形の角」 作業したり，考えたりする時間を十分に取る授業	藤原小百合
6年	算数 「ならして比べよう」 日常生活に体験的な活動を取り入れ，自分たちで考え判断する授業	清水 芳彦

③児童の実態把握 子どもアンケートの実施

1学期と2学期の終わりに，学習面についてのアンケートを行い，それを元に児童理解を深めた。

Ⅱ 成果と課題

1. 成果

- ・ 少人数のメリットやデメリットについて話し合い，課題を共有した。
- ・ 少人数に応じた指導として「全員が発表する場の設定」「考える時間の確保」「確かな見取りと肯定的評価」「多様な意見や考えを出す工夫」「体験的な活動」「自分たちで考え判断する場の設定」「グループ活動やペアでの活動を取り入れた授業」「聞く話す力をつけること」「個々に課題解決する場面設定」「発問の工夫」「ノート指導」などを試みた。
- ・ 朝の習熟学習「ステップアップタイム」の取り組みは，定着してきた。この時間は学習するという意識が育っている。落ち着いて机に向かい1校時が始められる。
- ・ 基本的な生活習慣，学習習慣の定期的な調査とそれに基づく指導・家庭との連携などがよかった。
- ・ 研究会では記入した付箋をもとにグループ討議をし，率直な話ができる。

2. 課題

- ・ 少人数の欠点を補う授業の工夫という点で，もう少し創意工夫をしていきたい。
- ・ 取り組む中で少人数に応じた指導の課題や問題点も見えてきたので，今後，焦点を絞って取り組めると良い。
- ・ 朝の習熟学習の時間はやり方・内容・時間の確保・年間計画作成など今後も検討していく必要がある。
- ・ 漢字や計算に強く苦手意識をもち負担になっている子もいる。支援について考えていきたい。

Ⅲ 成果物

- ・ 授業案・・・1年算数「ひきざん」，2年国語「一本の木」，3年算数「水のかさをはかろう」，3・4年道徳「一枚の絵から」，5年算数「図形の角」，6年算数「ならして比べよう」
- ・ アンケート集計結果 習熟学習のプリントなど。

(研究主任 沼田豊子)